

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1492900087	事業の開始年月日	平成21年10月1日
		指定年月日	平成21年10月1日
法人名	株式会社 ニチイ学館		
事業所名	ニチイケアセンター厚木愛甲		
所在地	(243-0035) 神奈川県厚木市愛甲1丁目12番20号		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	平成31年3月12日	評価結果 市町村受理日	令和1年7月18日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>『その人らしく、いつまでも』をモットーにしているホームです。閑静な住宅街に位置し、地域の方々の深い理解とご協力をいただきながら運営しております。認知症を理由に施設内だけの閉鎖的な空間での生活を強えず、積極的に地域行事への参加や外出の機会を設け、入居者は職員本位の日課で過ごす事無く、生活全般に入居者の思いを組み入れ、力を発揮していただき職員とご入居者の関係は、介護をする人と介護を受ける人ではなく、共に暮らす家族のような存在となれるよう努めています。</p> <p>また職員はホームヘルパー2級以上の資格所持者で、介護福祉士資格所持者も7名在籍しております。</p>
--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区山下町23番地 日土地山下町ビル9階		
訪問調査日	平成31年3月28日	評価機関 評価決定日	令和1年6月10日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>【事業所の概況】 この事業所は、小田急線愛甲石田駅から徒歩約7分の店舗や住宅が混在する市街地に位置している。建物は木造2階建てで、2ユニットの構成である。近隣には、コンビニや病院、食品や日用品販売の店舗が点在し、買い物かてらに散歩するなど利便性が高い。</p> <p>【職員のケアの向上】 職員全員が、介護福祉士や初任者研修修了の有資格者で、介護の経験の長い職員が多い。年間を通じて各種の研修を受け、新たな知識を学んで介護の質の向上に努めている。利用者への声かけや誘導の際には、習得したことを実践し、言葉による制止や拘束に当たる行動を避け、尊厳やプライバシーを守ることを第一に考えて行動している。利用者のケアについても、職員個々が重度化に伴う心身の変化を観察し、介助方法の改善などを主題に意見交換してケアサービスの向上に取り組んでいる。</p> <p>【開放的で楽しい暮らし】 事業所は、一人ひとりの職員が常に利用者に気を配り見守りをするにより、夜間を除いて玄関やユニット入口などに施錠することなく、開放的である。利用者は、自宅にいるように、いつでも自由に行動できることを認識し、穏やかな表情で落ち着いている。訪問時には、職員が、手持無沙汰な様子の利用者をカラオケに誘い、好きな曲を歌うことにより、曲を思い出し歌詞がよみがえって楽しそうであった。他の利用者も手拍子したり一緒に歌ったりして、歌声や笑い声の絶えないひと時を過ごしているのが見て取れた。利用者は、住み慣れた我が家で家族に支えられているような、安心した様子でゆったりと過ごしている。</p>

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	ニチイケアセンター厚木愛甲
ユニット名	海

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者の <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいの <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいの <input type="checkbox"/> 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="checkbox"/> 1, 毎日ある <input type="checkbox"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="checkbox"/> 3, たまにある <input type="checkbox"/> 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての家族と <input type="checkbox"/> 2, 家族の2/3くらいと <input type="checkbox"/> 3, 家族の1/3くらいと <input type="checkbox"/> 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ毎日のように <input type="checkbox"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="checkbox"/> 3, たまに <input type="checkbox"/> 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="checkbox"/> 1, 大いに増えている <input type="checkbox"/> 2, 少しずつ増えている <input type="checkbox"/> 3, あまり増えていない <input type="checkbox"/> 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての職員が <input type="checkbox"/> 2, 職員の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 職員の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての家族等が <input type="checkbox"/> 2, 家族等の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 家族等の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ニチイケアセンター厚木愛甲の誓いを、毎日の夕方の申し送りの際に唱和を行い、共有し、業務に流され忘れず実践できるよう心掛けている。	5項目にわたる理念「ほほえみの誓い」を基に、「その人らしく、いつまでも」というモットーを作成し、朝・夕の引継時などで唱和して周知を図っている。職員は、常に笑顔で明るくふるまって利用者に満遍なく話しかけ、想いや希望を汲みとってその人となりを尊重し、ホームの暮らしを楽しむように支援している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会への加入、地域行事とホーム行事への相互参加等日常的な交流をしている。	自治会に加入し回覧板で知らせを受け、利用者が職員と一緒にどんど焼き、盆踊りや敬老会に参加している。毎年、小学校の運動会に招待を受け、都合がつけば見物に行っている。市のシルバー人材センターから、定期的に傾聴やフラダンスのボランティアが来訪し、利用者が楽しみにしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	積極的に地域行事に参加しており、実際に認知症の方々と接する時間を作っていただき、地域との理解を深めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族とサービスに関する意見を交わしたり、地域の方々と近況報告をしている。	運営推進会議は2か月ごとに開催しているが、事業所の事情により年間の開催予定が立てられず、開催日程を事前に関係者に通知出来ない。行政関係者、民生委員などの参加がない。現状では、自治会長、老人会長、家族（ほぼ固定）、ホーム職員が参加して、事業所の活動状況、行事報告のほか、自治会長や家族代表と意見交換をしている。	年間の開催計画を策定のうえ、厚木市、地域包括支援センター、民生委員へ参加の依頼を行い、幅広いメンバーで情報交換を行うことを望みます。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政サイドも親身な対応をしてくれており、相談や、情報共有ができています。	厚木市健康保険課に出向いて、要介護認定申請手続き代行の届け出や事故報告書の提出を行っている。その際に入居希望者の取扱に関して、相談したりしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関とユニットドアの施錠は防犯上夜間のみ実施している。が、その他施錠を含めた身体拘束の実施は全職員共通の認識を持ち行っていない。	毎年、身体拘束防止に関するマニュアルを基に職員研修を行っている。毎月開催する「業務ミーティング」で身体拘束に関する職員の言動について話題に出ることがある。玄関やユニットの入口は夜間のみ施錠している。職員は、利用者の見守りに気を配り、不意の外出に備えている。	職員が参加する「身体拘束等適正化委員会」を設置し、少なくとも3か月毎に身体拘束排除について話し合い、議事録を残すことを期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入社時、及び年間の研修計画の中で、高齢者虐待防止法の学習があり、最低年に1回の振り返りが行えている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	既に成年後見人制度の案内をし、導入ケースがある。制度についての研修は管理者が中心となるが参加をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約時には、十分な説明とご理解を得るよう努めている。理解、同意を頂いた上で契約を取り交わしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱の設置、年1回のアンケート実施を行っているが、家族会や、面会の際などでもホーム、職員への要望、ご意見を伺うよう努めている。	家族の意見や意向は、運営推進会議への出席や利用者への面接の際に聴き取っている。来訪の少ない家族は、電話をかけて希望や苦情を聴いている。毎年行う法人の満足度調査で、リビング床の清掃状況や居室の整理整頓について苦情があった。業務ミーティングで対応を話し合っ、リビングの清掃は毎朝行い、床の汚れチェックや居室の整理整頓に常に気を配っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の生活の中やユニットごとで行う業務ミーティング等で職員の意見、提案を受けている。	管理者は、毎月行う業務ミーティングで、職員の意見や提案を把握しているが、毎日のコミュニケーションにより、要望や提案を聴き取ることも多い。下肢能力の低下が著しく立ち上がりが困難な車椅子利用者について、職員の提案で、肘掛けはね上げ式の多機能車椅子に変更したところ、容易かつ安全に移乗が出来るようになったケースがある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員評価制度や、時給者においてもキャリアアップ制度等が整っており、向上心を持ち業務に携われる環境がある		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は、雇用形態や職種ごとの社内研修を受けている。外部研修参加は推進しているが、慢性的な職員不足もあり参加できていないのが現状である。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	厚木介護事業所連絡会への加入をしており、他事業所との交流機会が持っている。見学などの相互訪問もあり、質の向上に繋がるよう努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の相談時から、ご本人やご家族の困り事、心配事、求めている事を、誠意を持ち伺うよう努めている。スタッフも特に入居初期においては傾聴を重んじている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期における聞き取りは、充分時間をかけ、より良い関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族がその時に必要としている。支援は何なのか？をしっかりと聞き取り、提案も行いながら決定するよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護する人と介護される人の関係ではなく、共に暮らし、お互いに支えあいながら生活をする家族的な存在となるよう心がけている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご入居者を支えていただく為の大事な一員として共に考えていけるよう、心掛けている。来訪時には近況報告や面談を行い、ご希望や、ご意見を頂いたり、家族と過ごす時間の尊重をしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	一部の方には、手紙や電話での通信支援を行っている。家族以外でも馴染みの関係の方の面会があったり、共に外出されている方もいる。	家族が迎えに来て、墓参りに出かける利用者がいる。遠方にいる家族が、帰省時に孫を連れて来所することもある。毎日電話をかけてくる家族がいて、利用者に取り次いでいる。友人の誕生日に折り紙細工を送る利用者がおり、作品の発送を支援している。長年の習慣である、スポーツ紙の購読を続けている方がいる。若い頃流行った歌謡曲を歌って楽しむ方もいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係の見守りを行い、孤独にならないよう話題提供を行っている。一人で過ごす時間を好む方もあり、自室で長時間過ごす方もいる。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も、その後家族との交流が続いている。相談などがあった場合には適宜応じている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常生活の中での関心度合いや積極性などからの判断や、言語的な訴えでの聞き取り、過去の生活歴や家族からの情報提供で希望要望を把握するよう努めている。	職員は、日頃から利用者との会話を交わし、意向や思い、どう暮らしたいかを把握している。発語が困難な方については、家族からの聞き取りをしている。把握した情報は、「業務管理日誌」に記録して共有したり、職員同士のコミュニケーションにより、情報共有を図っている。髪を染めたいという方について、染髪剤を買いに行き染めるまでを支援した。馴染みの美容室に行きたいとの希望があり、職員が同行したことがある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前状況は、家族やケアマネ等から情報収集をしており、生活歴や嗜好、性格などの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人のその時々々の心身状態や意欲、能力を共有しその人らしく暮らせるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にカンファレンスを行っている。本人の希望要望は日常の会話や生活の中から汲み取るなどの工夫をし、必要に応じ医師や看護師等の助言アドバイスを頂いている。	介護計画は、利用者ごとのニーズや課題に沿った、長期・短期目標、具体的なサービス内容を盛り込んで作成している。職員は計画を認識し、介護記録に具体的な実施内容を記録し、問題点を特記事項に記載している。カンファレンスは毎月行われ、職員が計画の実施状況や評価を話し合っており、計画作成担当者がモニタリングし見直しにつなげている。計画の見直しは、通常は6か月毎、状況の変化があれば随時行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録、管理日誌を活用し情報共有はできている。また月に1度ミーティングを開催しており、その際に今後の対応方法などを見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	お客様本人からの要望は、危険がない限りなるべく叶えられる様努力をしている。ご家族からの要望や、状態変化に応じ、可能な限り柔軟な対応を心掛けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会行事参加やホーム行事への地域住民参加、ボランティア来訪などで心身ともに豊かな暮らしを得られるよう努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望を尊重し主治医決定をしてもらっており、入居時にはホーム提携医の紹介を行っている。提携医に対しての受診支援は積極的に行っている。	利用者全てが協力医機関を受診しており、月に2回の往診がある。訪問看護師は毎週来訪し、健康管理などを行っている。看護師とは、24時間オンコール体制にある。歯科医は週1回の往診で、口腔ケアや必要に応じて診療を行っている。協力医療機関内の精神科に、職員が同行して通院する利用者が1名いる。個人契約で、訪問マッサージを受けている利用者が5名いる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師、提携医療機関看護師とは情報の共有、相談等を日常的に行っており、24時間体制で連絡が可能		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	提携医には入院加療が必要な場合も早期退院を要望し理解協力を得ている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、終末期に対する指針の説明と同意を頂いており、入居時段階での家族の思い、考え方を聞き取る努力をしている。事業所としては重度化における対応に関わる指針をスタッフで周知しており、退去者があった後のミーティング等で理解を深めるよう動機付けている。	家族には、入所時に「重度化した場合における対応に係る指針」を説明し、同意を得ている。管理者は、基本的に看取りを行う体制にないと考えている。利用者が重度化し終末期に入った段階で、家族・医師・管理者で話し合い、家族の希望があれば、可能な限りケアを行う。その後、医療が必要になれば入院となる。先頃、利用者の状態の急変により看取りに至った事例がある。	今後、利用者の重度化がさらに進む可能性があります。重度化対応について、医療の専門家による職員研修の実施を望みます。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	業務ミーティングで自社マニュアルを使用しながら対応を確認しており、そのマニュアルはいつでも観覧できるよう保管している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回消防訓練を行っており、災害時の避難、指定避難場所までの経路を全職員把握している。自治会の防災訓練参加も行い、災害時の協力について自治会の理解も得られている。	避難訓練を年2回行い、うち1回は消防署の立ち合いである。職員の緊急連絡網が整備され、連絡順は事業所に一番近い職員が筆頭となっている。夜間想定連絡・避難訓練では、事業所に一番近い職員が駆け付けたという想定で、所要時間を経てから避難訓練を行っている。事業所内に、3日分の飲料水や食料、カセットコンロやボンベなどをリストアップして、回転備蓄を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者ひとりひとりの慣れ親しんだ話し方、呼び方に合わせているが、馴れ合いになったり、言葉使いが荒くなったり、自尊心を傷つける可能性があることも含め十分な配慮を要する	毎年、職員に対して、個人情報保護に関するテストや研修を実施している。利用者の個人的なことを話す場合、大声で話さない、名前で呼ばないなどを注意している。浴室の脱衣場と洗濯室を防災カーテンで仕切り、プライバシーに配慮している。リビングで使う利用者の個人記録は事業所独自の英字表記を行っている。個人情報を含む書類は、事務室の書庫に施錠して保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	衣類選択や家事参加、外出時の準備や理美容の際、なるべく本人に希望を伝えていただいております。希望要望の少ない方は本人本意の視点で良いと思われる事を決定していくようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望に沿った1日を自身のペースで過ごせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に1回理美容の支援を行い、外出やイベント時は、女性はメイクをしたりマニキュアなどで普段以上に身だしなみを整えるという事でその人らしく、女性らしい楽しみを支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	参加意欲や能力に応じたお手伝いをお願いし、共に食事作りや片付けを行っている。	食事の献立は、数日前に当番の職員が考え、必要な食材を事務方がネットスーパーや近隣の食品販売店から購入している。旬の魚や野菜を取り入れている。利用者の状況に合わせて、とろみ・きざみ食などを提供している。利用者は、職員と一緒に野菜を切ったり、盛り付けや後片付けなど出来ることを手伝っている。花見のときや外出時には、希望を聞いて出前弁当を頼んでいる。誕生日には、近くのケーキ屋で利用者の好きなものを購入して提供している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	身体状態、習慣、好みに合わせた形での食事提供をし、食事と水分摂取量は記録をし、1日の必要量を摂取できるよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	力量、習慣に合わせ個別に支援をし、訪問歯科での義歯調整や口腔内チェックも実施している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	自立の方もいるが、定時誘導のほかには個々の表情、行動を見て誘導をし、パッドやリハパンの利用減に努めている。排泄支援時は、失禁があっても1度はトイレに着座をし、残尿など無いようスッキリとして頂き、トイレでの排泄習慣が取り戻せるよう支援を行っている。	トイレはユニットごとに3か所あり、すべて清掃が行き届いている。うち1か所は車椅子対応で浴室に隣接し、正面ドアを閉めても、横から浴室に通じており、失敗時に対処しやすい。日中は、排泄チェック表によりタイミングを見て、さりげなく声をかけたり誘導することで、トイレでの自立排泄を支援している。夜間は定時巡回し、利用者毎の状況に合わせて、おむつ交換、見守りやトイレ誘導などの支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物の工夫、十分な水分摂取の促しと、量の記録を行い、適度な運動を日常生活に取り入れている。便秘傾向の強い方には医師と相談の上、下剤使用者もいる		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	ご入居者の入浴習慣や体調、身体能力に合わせて臨機応変な入浴の支援を行っている。重度介助の方の入浴支援は計画的に実施をしている。	入浴は原則として週2回で、時間は利用者の希望に合わせている。身体状況により、シャワー浴で済ませる場合もある。入浴の際に全身の状況を確認出来るので、出来るだけ全身浴をしてもらっている。浴槽の湯は1人ずつ交換している。床暖房や空調設備で温度調節し、ヒートショックに対応している。柚子湯などで、季節を感じてもらっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	疲労度合いや、夜間の睡眠状態に応じて休息の促しをする事もある。自室に限らずソファや和室等、くつろげる場所で過ごしていただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬については全職員が把握できるようファイルに綴じ管理をしている。服薬時は2重チェックを実施。処方の変更や追加薬があった場合には特に変化に留意するよう周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常的に役割を持った生活をしてもらえるよう働きかけ、ホーム全体、ユニットごと、個別等、年間を通じ楽しみごとのある生活を送れるように支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物は日常的に実施し季節ごとの外出や地域行事参加を実施し、家族との外出などは自由に行っていただいている。	天候が許す限り、買い物も兼ねて近隣の店に出かけるよう努めている。車椅子利用の方も、職員が同行して出かけている。年2回、日曜日に実施される全館床清掃の日を利用し、全員参加の外出行事として。同じ法人のデイサービスの設備を使い運動会や大浴場で入浴を楽しんだり、それぞれ好きな弁当を食べるなどしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	トラブル回避の為、基本的には金銭所持はないが、本人や家族希望がある場合、家族の理解と協力を得て小額所持をしている方もいる。事業所として預かっているこづかい金もある為、買いたいものがある場合には支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個々の要望、力量に応じ、手紙、電話での家族との交流支援を行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	浴室、トイレ等の明示を行っている。今日の月日がわかるカレンダーをリビングに作り、生活感、季節感が過度にならないよう装飾等を行っている。	共有空間は、清掃が行き届き採光がよく明るい。リビングは床暖房で、空調設備や加湿器と併せて温度・湿度を快適に保っている。一角にある畳部屋は、会議やイベントの支度部屋などに利用している。片側のオープンキッチンからは、フロア全体を見渡すことが出来る。廊下やリビングには、利用者と職員が共同制作した色彩豊かな切り紙や折り紙の作品が飾られている。広い庭では桜がほころび、菜園には、季節の野菜が芽吹いていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自由に過ごせるソファセット、ウッドデッキ、和室がある		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた愛用の家具やベッド、大切にしている。思い出の品などを入居時に持参いただいている。又趣味のものや、家族の思い出の品なども、お持ち込み頂き安心して過ごせるようにしている。	居室は、空調設備、照明器具、収納設備、防炎カーテン、スライドハンガーが常備されている。ベッドは持ち込みであるが、希望すれば、法人から介護ベッドの貸与を受けることが出来る。利用者は、使い慣れた家具やテレビを置き、家族写真などを飾って居心地よくしつらえている。清掃は職員が行うが、手伝う方もいる。衣類の管理や整理は居室担当が行っている。表札は、文字が大きく分かりやすい。1階では入口脇に桜の枝を飾って春を演出していた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	普通に生活するというスタンスの中で、出来る事には安全にトライできるよう見守っている。過剰な介護を控え、見守るスタンスを大切にしている。		

事業所名	ニチイケアセンター厚木愛甲
ユニット名	山

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/>	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/>	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ニチイケアセンター厚木愛甲の誓いを、毎日の夕方の申し送りの際に唱和を行い、共有し、業務に流され忘れず実践できるよう心掛けている		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会への加入、地域行事とホーム行事への相互参加等日常的な交流をしている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	積極的に地域行事に参加しており、実際に認知症の方々と接する時間を作っていたいただき、地域との理解を深めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族とサービスに関する意見を交わしたり、地域の方々と近況報告をし		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政サイドも親身な対応をしてくれており、相談や、情報共有ができています		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関とユニットドアの施錠は防犯上夜間のみ実施しているが、その他施錠を含めた身体拘束の実施は全職員共通の認識を持ち行っていない		
7	###	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入社時、及び年間の研修計画の中で、高齢者虐待防止法の学習があり、最低年に1回の振り返りが行っている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	既に成年後見人制度の案内をし、導入ケースがある。制度についての研修は管理者が中心となるが参加をしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約時には、十分な説明とご理解を得るよう努めている。理解、同意を頂いた上で契約を取り交わしている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱の設置、年1回のアンケート実施を行っているが、家族会や、面会の際などでもホーム、職員への要望、ご意見を伺うよう努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の生活の中やユニットごとで行う業務ミーティング等で職員の意見、提案を受けている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員評価制度や、時給者においてもキャリアアップ制度等が整っており、向上心を持ち業務に携われる環境がある		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は、雇用形態や職種ごとの社内研修を受けている。外部研修参加は推進してはいるが、慢性的な職員不足もあり参加できていないのが現状		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	厚木介護事業所連絡会への加入をしており、他事業所との交流機会が持てている。見学などの相互訪問もあり、質の向上に繋がるよう努めている		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の相談時から、ご本人やご家族の困り事、心配事、求めている事を、誠意を持ち伺うよう努めている。スタッフも特に入居初期においては傾聴を重んじている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期における聞き取りは、充分時間をかけ、より良い関係作り努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族がその時に必要としている支援は何なのか？をしっかりと聞き取り、提案も行いながら決定するよう努めている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護する人と介護される人の関係ではなく、共に暮らし、お互いに支えあいながら生活をする家族的な存在となるよう心がけている		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご入居者を支えていただく為の大事な一員として共に考えていけるよう、心掛けている。来訪時には近況報告や面談を行い、ご希望や、ご意見を頂いたり、家族と過ごす時間の尊重をしている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	複数のお客様へは手紙や、電話での通信支援を行い、身元保証人様より、特段のお申し出が無い限り、訪ねてきた方との面談をしてもらっている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士のコミュニティを把握するよう努め、入居者同士もお互い様と思える雰囲気を作り、相互の関係を見守っている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も、その後家族との交流が続いている。相談などがあった場合には適宜応じている		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	自ら希望等が話せる方には、そのためにどうしたらいいか等の案を出し、言語でうまく表現できない方の場合、本人本位に検討をしている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前状況は、家族やケアマネ等から情報収集をしており、生活歴や嗜好、性格などの把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人のその時々々の心身状態や意欲、能力を共有しその人らしく暮らせるよう努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にカンファレンスを行っている。本人希望要望は日常の会話や生活の中から汲み取るなどの工夫をし、必要に応じ医師や看護師等の助言アドバイスを頂いている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録、管理日誌を活用し情報共有はできている。また月に1度ミーティングを開催しており、その際に今後の対応方法などを見直している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	お客様本人からの要望は、危険がない限りなるべく叶えられる様努力をしている。ご家族からの要望や、状態変化に応じ、可能な限り柔軟な対応を心掛けている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会行事参加やホーム行事への地域住民参加、ボランティア来訪などで心身ともに豊かな暮らしを得られるよう勤めている		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人家族の希望を尊重し主治医決定をしてもらっており、入居時にはホーム提携医等の紹介を行っている 提携医に対しての受診支援は積極的に行っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師、提携医療機関看護師とは情報の共有、相談等を日常的に行っており、24時間体制で連絡が可能		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	提携医には入院加療が必要な場合も早期退院を要望し理解協力を得ている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、終末期に対しての指針の説明と同意を頂いており、入居段階での家族の思い、考え方を聞き取る努力をしている。事業所としては重度化における対応に関わる指針をスタッフで周知しており、退去者があった後のミーティング等で理解を深めるよう動機付けている		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	業務ミーティングで自社マニュアルを使用しながら対応の確認しており、そのマニュアルはいつでも観覧できるよう保管している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回消防訓練を行っており、災害時の避難、指定避難場所までの経路を全職員把握している。自治会の防災訓練参加も行い、災害時の協力について自治会の理解も得られている		
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者ひとりひとりの慣れ親しんだ話し方、呼び方に合わせているが、馴れ合いになったり、言葉使いが荒くなったり、自尊心を傷つける可能性があることも含め十分な配慮を要する		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	衣類選択や家事参加、外出時の準備や理美容の際、なるべく本人に希望を伝えていただいております。希望要望の少ない方は本人本意の視点で良いと思われる事を決定していくようにしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望に沿った1日を自身のペースで過ごせるよう支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に1回理美容の支援を行い、外出やイベント時は、女性はメイクをしたりマニキュアなどで普段以上に身だしなみを整えるという事でその人らしく、女性らしい楽しみを支援している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日常的に入居者と共に行っている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	身体状態、習慣、好みに合わせた形での食事提供をし、食事と水分摂取量は記録をし、1日の必要量を摂取できるよう努めている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	力量、習慣に合わせ個別に支援をし訪問歯科での義歯の作成や、補修、調整また口腔内チェックも実施している		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	自立の方もいるが、排泄パターンや習慣を把握し、個々の表情、行動を見て誘導をし、パットやパンツの利用者は常に不快が無い状態でいられるよう支援を心掛けている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物の工夫、十分な水分摂取の促しと、量の記録を行っている。日常的に適度な運動、散歩を生活に取り入れている。各種予防策を試しても便秘が解消されない方は下剤服用を行っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	介助を必要とする方は2～3日に1回の入浴を目標にご本人様の体調等考慮しながら支援している。自立の方に関しては要望があれば9：00～20：00までであれば自由に入浴できるよう支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間は睡眠や入眠障害に対しては医師への相談をするが生活習慣での遅い入眠や起床は生活上支障がなければ個々の習慣や気持ちを尊重をしている 昼寝等も体力や習慣を重んじている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬については全職員が把握できるようファイルに綴じ管理をしている。服薬時は2重チェックを実施。処方の変更や追加薬があった場合には特に変化に留意するよう周知している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常的に役割を持った生活をしてもらえるよう働きかけ、ホーム全体、ユニットごと、個別等、年間を通じ楽しみごとのある生活を送れるように支援している		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物は日常的に実施しており、活動的な方も多く、1日に複数回の外出支援もある。季節ごとには旅行等も実施している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	トラブル回避の為、基本的には金銭所持はないが、本人や家族希望がある場合、家族の理解と協力を得て小額所持をしている方もいる。事業所として預かっているこづかい金もある為、買いたいものがある場合には支援をしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望がある場合、手紙、電話での家族との交流支援を行っている、毎年手書きの年賀状を家族に出している		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室、浴室、トイレ等の明示を行い、季節の間違えが無いよう季節感を取り入れた空間演出を過度にならないよう実施している		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自由に過ごせるソファセット、和室がある 利用者同士でくつろぐ場合には相互の居室訪問も多い		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた愛用の家具やベッド、大切にしている思い出の品などを入居時に持参いただいている。又趣味のものや、家族の思い出の品なども、お持ち込み頂き安心して過ごせるようにしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来ること、出来そうなこと、わかること、わかりそうなことに対して、過剰な手出しや声かけをせず、自立した生活が送れるように努めている		

平成 30 年度

事業所名 ニチイケアセンター厚木愛甲

作成日 2019年 7月 11日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	3	運営推進会議への参加層がかぎられている。地域の方・行政の参加が少ない。	運営推進会議を定期的に開催して、地域や行政他様々な立場の方の意見を伺う機会を設ける。	開催計画を早めに策定して、関係者にアナウンスをして参加率増加を目指す。また幅広いメンバーでの情報交換をして、サービスの向上に努めていく。	2019年7月 ～2020年3月
2	5	身体拘束に関する研修議事録が足りない	「身体拘束等適性委員会の設置」及び研修実施議事録作成。	身体拘束（禁止）についての話し合い・研修を毎月（最低3ヶ月に1回研修）行い、職員全員が正しい認識・理解が出来るように適切に整備する。	2019年7月 ～2020年3月
3	12	重度化や終末期に向けての速やかな対応・整備	年齢や疾患のため、重度化した場合の対応を、その方それぞれに合わせて適切に速やかに支援できるようにする。	重度化になりえる（なっている）利用者の方・家族・関係機関（医療他）と速やかに情報共有して、遅滞なく安全に対応できるように、（研修専門機関の研修）など開催・実施・参加をしていく。	
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。

###